

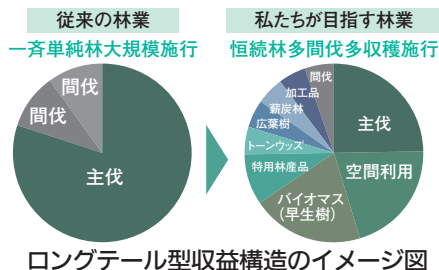
# SDGs × 三重の森を守る

森林保全のため、私たちはこう考え行動しています

## 林業の収益構造を多様化

松阪市小片野町のバイオマスパワーテクノロジーズ(株)北角強代表取締役社長)は、木質バイオマス発電事業を起点に、エネルギーと林業を融合させた持続可能な資源循環型経済の構築を目指している。バイオマス発電所の強みを生かし、丸太の売り上げが大半だった従来の林業から、収益構造を多様化した新しい林業の確立を目指し、長年整備されずに放置された「施業放置林(荒廃林)」の整備、集約化に取り組んでいる。

2019(令和元)年に創設した林業事業部を率



### バイオマスパワーテクノロジーズ株式会社(小片野町) 木質バイオマス発電所の強み生かす

いる取締役・最高林業責任者の福井勲さん(38)は、SDGsが重視される現在、「林業は木材生産だけでなく、カーボンニュートラルや生物多様性などの観点から再び価値が見直されている」と話す。一方で、所有者や境界が不明で森林の集積ができない木材では採算が合わないと言った理由で、国内

の林業が衰退。長年整備されず放置された山は多い。

このような背景から同社では、バイオマス発電所を自ら所有・運営するという強みを生かし、山(林)が生み出す様々な価値を循環させ、幅広い山の整備を進める構想で荒廃林の集約と整備に取り組む。現在、同社初の荒廃林の再



専門チームで放置状態の人工林の整備、集約に取り組む



会社 Memo

生事業として、いなべ市の放置人工林約350haの整備を進めている。森林の集積にあたり、所有者としてはなく採算が取れる範囲を一括で受託して集約し、これまでに70haの整備を実施した。

また従来の林業では丸太の売上が大半を占めていた収益構造を、バイオマスやキャンプ場といった空間活用など多様化させることで経営面での柔軟さと強靱(きょうじん)さを合わせ持ったロングテール型の持続的林業の実現を目指している。

福井さんは「施業放置林を減らすために、私たちの取り組みを知ってもらい協力いただけるならぜひ地元的林業会社と一緒に取り組んでいきたい」と話す。

松阪市小片野町で、2015(平成27)年12月に設立。バイオマス発電事業以外にも、プラントの企画、設計、設置、運営管理、保守運用、電力供給、電力売買、人材教育及びそれらに関するコンサルティング事業を行う。